

## 今こそ 生活科学の出番です

大阪市立大学同窓会事務局(生活科学部同窓会)

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 田中記念館3F

TEL : 06-6605-2113 FAX : 06-6605-2088

E-mail : aalumni@ado.osaka-cu.ac.jp

http://www.osaka-cu.net/seika/

生活科学部同窓会 検索

### GREETING ご挨拶



生活科学部同窓会会長

**岸本 幸臣**

生活科学部同窓会のみなさまには、お元気にご活躍のことと思います。大阪市立大学の全学同窓会が発足して五年が経過し、順調に全学的立場からの母校と在学生への支援活動に取り組んでおります。大学の近況を少し紹介しますと、杉本キャンパスの本部地区も景観を新たにしています。1号館(時計台)の西側には、本学の創業者である五代友厚氏の銅像が、彼の生誕160周年を記念してこの3月に建立されました。また、この半世紀ほどは、母校のシンボリック的風景になってきた時計台前のワシントン椰子の並木は、植樹から60年が経過し20メートルを超える高木に成長していましたが、倒木による危険回避のために6月に伐採されています。現在はプロムナード沿いに、伐採したワシントン椰子を活用した、長い丸太の簡易ベンチが往時の姿を残してくれています。こうした光景に身を置いてみると母校の歴史の重みを感じると共に、その歴史の一時期を自分が共有出来たことに、やはり慶びと誇らしさを感じます。是非みなさんも体験してみてください。

生活科学部同窓会としても、同じ学部・研究科で学んだもの同士の交流や親睦の活動だけではなく、その学びや研究の独創性の社会発信を支援して行く活動も大切な役割のように思っています。私たちの学部・研究科の教育と研究は、その様々な活動の成果が最終的には「人間生活の好ましいあり方を実現すること」に貢献出来る必要があります。ワシントン椰子が植えられた1960年代、時代は高度成長・都市化・機械化のさなかでした。人知万能の時代に入ったような熱狂に私たちは酔いしていました。でも、あれから60年ほどが経過した現在、社会は資源枯渇・環境破壊・超少子高齢化・格差拡大の矛盾が激化し、人間生活の不確実性が深刻化しています。その結果、当初の目標だった持続可能な安定性のある人間生活から、ますます遠ざかって来たように思われます。

人々のこうした不安をどのように克服すべきなのか、私たちの学部・研究科の卒業生は常に各々の立場で、それに向かい合って行く役割を担わされているように感じています。専門職としての関わり方は勿論ですが、それ以外にも市田の一市民として、地域の一住民として、「人間生活の好ましいあり方を実現する」ための提言や行動を、生活者として社会に発信することが出来るのも、私たち学部の同窓生の強みでもあり誇りなのではないでしょうか。こうした活動の強化が同窓会の今後の充実・発展に繋がればと願っています。

平成29年9月10日

### 学内散歩



【五代友厚銅像】  
2016年3月19日建立。商学部棟と文学部棟の間にあります。NHKの朝の連続ドラマで五代友厚を演じた、ディーン・フジオカ氏より祝辞が送られました。



【ワシントン椰子伐採】  
2017年6月、昭和32~33年に植樹され、23mまで成長したヤシの木は安全のため伐採され、現在広場改修工事中。新しい広場になります。

### EVENT イベント

## HOME COMING DAY

2017年度大阪市立大学ホームカミングデー  
生活科学部同窓会 総会・講演会のお知らせ

2017年11月3日(金・祝)

皆様お誘い合わせてご参加下さい。総会当日は大阪市立大学が主催する大学祭とホームカミングデーの開催中で、各種の催しが一日中大学内で行われています。ご参加をお待ちしております。

### 大阪市立大学生活科学部同窓会 総会・講演会

【日時】  
2017年11月3日(金・祝)  
15:00~16:20  
(開場 受付開始14:30~)

【会場】  
文化交流室  
(学術情報総合センター1F)

【プログラム】  
15:00~15:30  
2017年度生活科学部同窓会総会  
15:30~16:20  
生活科学部 生活科学研究科  
同窓生による講演



### 〈同窓生講演会〉

「本屋ですが、ベストセラーはおいてません。  
一本屋という開かれた場」

講師：株式会社 鉢の木代表取締役 / スタンダードブックストア代表  
中川和彦氏(1985年住居学科卒)

本屋は目的もなくふらっと入れて何時間でも過させ、何も買わなくても罪の意識を全く感じずに出て行ける稀有な場です。スタンダードブックストアでは本や雑誌は自分たちが気に入ったものを仕入れ、カフェでは自分たちが食べたくないものは提供しないようにしています。そう、自分たちが行きたくなる場を目指しました。外出先から帰宅するまでに、ホッとしたり、自分を取り戻すために立ち寄っていただければ幸いです。理想は街の余白のような場所。余白と一緒に遊ぶ共犯者を募って、街の公共財を目指します。

※他、各学部同窓会 クラブ催し物がございます。

※詳細は大学ホームページをご覧ください。

### 同窓会事務局システムについてのご案内

生活科学部同窓会への住所変更などの御連絡ならびにお問い合わせは、下記の連絡先をお願いいたします。なお、今後の生活科学部同窓会からの御連絡につきましては、同窓会ホームページを活用してまいります。ぜひ生活科学部のホームページをご覧ください。  
http://www.osaka-cu.net/seika/

大阪市立大学同窓会事務局(生活科学部同窓会)

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 田中記念館3F

TEL : 06-6605-2113 FAX : 06-6605-2088

E-mail : aalumni@ado.osaka-cu.ac.jp http://www.osaka-cu.net/seika/



## 大学も学生も変化する

生活科学研究科長  
永村 一雄

センター試験をはじめとする大学改革が紙面を賑わせています。もちろん変化は入り口にとどまらず、組織全体、教員一人ひとりにまで影響を及ぼしています。少し前までの「のどか」に感じられた大学環境とは一変している現状は、周囲からなかなか想像がつきにくいようです。単純に表現すれば、大学という入れ物も、国民目線で評価されねばならぬというところでしょうか。少々のがままなら許された慣行も、ガバナンスという名のもとに整然とした規則に改められ、その遵守がつよく求められています。教員だけではなく、学生も学修の結果としての「質の保証」という題目のもと、なにを獲得したかを明示しなくてはなりません。なんとも、むずかしい時代になりました。かつて「モラトリアム」と呼ばれた大学は、まさに「虎の穴」のよう。さて、文部科学省がこうした御旗を振りたくなる理由もわからない訳ではありません。なんといっても人口の縮退

が目の前に迫っているのですから。超高齢社会も目の前です。なにを資本に、どの途をえらば、この国は、豊かさを維持できるのでしょうか？先進国、つまりトップランナーとは、先頭に立ったがゆえに、做うものが居なくなり、なにが大事かを自身で探し当てねばならぬ存在のはず。学生に、言わずもがなの指示をしていた先生たちも、身の処し方は、自分で考えねばならなくなりました。わたしたちも、ようやく大人の仲間入りです。これからの大学は、教育・研究・社会貢献をどう担っていくのか、そのディシプリンを提示し、これに賛同した学生とともに、みなさまがたをはじめとする多くの方々に、自分たちの活動を評価してもらうこととなります。いま、その基盤を整備し始めたところ、といえそうです。生活科学のあたらしい未来を築くべく、日々、精進している事実をご報告するとともに、みなさま方からのご支援、ご協力を今後も賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 学科近況報告 1

2017年度 食品栄養科学科主任

#### 羽生 大記

食品栄養科学科および大学院食・健康科学講座には、14名の常勤教員と6名の特任教員が在籍し、食品栄養科学の教育・研究、管理栄養士の育成を丸とになって推進しています。常勤教員の内訳は、教授5名(西川、佐伯、羽生、由田、増田)、准教授8名(上田、安井、市川、小島、古澤、金、福村、中台)、講師1名(早見)です。特任教員の内訳は、特任教授1名(春木)、特任助教2名(出口、浅野)、特任助手3名(森本、西田、亀田)です。

中台枝里子先生は、九州大学薬学部を卒業され、薬剤師の資格を取得されました。2004年東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了、博士(薬学)を取得されています。2007年からは、東京女子医科大学医学部第二生理学教室助教、講師を勤められ、2014年から大阪市立大学複合先端研究機構テニュアトラック特任准教授を経て、本年4月から当研究科 食・健康科学コースの准教授に就任されました。主な研究テーマは、感染モデルとしての線虫*C. elegans*を用いた、環境ストレスに対する生体応答の研究です。将来有望な若手女性研究者として、高度な実験研究を通じて、当学部の理系女子に基礎研究の大切さ、真摯さを教え、当コースの学術レベルを引き上げていただくことが期待されています。

平成29年3月末に、長年、食育分野、栄養教諭育成に関して我が国をリードされて来られた春木敏先生が退職され、引き続き当コースの特任教授としてご指導いただく一方、平成29年4月1日より、甲南女子大学医療栄養学部 医療栄養学科 特任教授として着任され、自らが拓かれた栄養教育学の更なる発展のためにご尽力いただく予定です。

当学科、コースは、生命科学をはじめとする実験的研究に立脚した基礎科学的教育を重視し、食と栄養に関する諸問題の解決に取り組む先端的研究者、高度専門技術者、栄養教諭、実践的分野では、高次機能病院や医療機関において指導的立場を担う臨床栄養師、政策立案・実施に寄与する行政栄養士の養成を目指しています。

### 学科近況報告 2

2017年度 居住環境学科主任

#### 岡田 明

居住環境学科の近況を卒業生の皆様にご報告いたします。まず、常勤教員の状況ですが、2016年春に三浦研教授が京都大学に転出され、その後任として2017年春から松下大輔教授が岡山より赴任されました。また、講師だったファーマン・クレイグ先生が准教授に昇進されました。その結果、現在、教授8名(多治見、永村、藤田、岡田、森、小伊藤、松下、渡部)、准教授6名(土井、酒井、上田、小池、福田、ファーマン)、講師1名(生田)、助教1名(西岡)、計16名の布陣で教育・研究を行っています。

そして、最近行われた主な行事としては、2017年4月21日(金)・22日(土)に「第14回 居住環境デザインフォーラム」が開催されました。本フォーラムは、2004年以降毎年開催されており、本学科の作品発表イベントのひとつとしてすっかり定着しています。学部の課題等の優秀作品、卒業設計そして修士設計などの作品が展覧され、設計製図の教育成果がまさにここに凝縮されています。恒例となる著名な専門家による講演会も、今年は数多くの優れた作品を世に送り出し幾多の賞を受賞されているグラフィックデザイナー 廣村正彰氏をお招きしました。また、毎年8月上旬に開催されているオープンキャンパスも中身の濃い内容で行われています。本学科への参加者は例年2日間に渡り延べ数百名にのぼり、現役の高校生や教師・保護者が学科の各施設や学生の課題作品等を興味深く見学し、また在学生の学科紹介にも熱心に耳を傾けています。

居住環境学科の教員・学生一同、他にも数多くの研究教育活動や地域貢献等にも取り組んでおり、各方面で成果をあげることにより当学科の発展に寄与しております。今後も、卒業生の皆様のご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 学科近況報告 3

2017年度 人間福祉学科主任

#### 所 道彦

人間福祉学科・大学院の総合福祉心理臨床科学講座の教員組織体制は、常勤教員14名、特任教授1名、特任准教授1名です。平成27年度で栗田洋江教授、小西省三郎特任教授が退職され、平成28年4月に大西次郎教授と堀口正教授が着任されました。また、非常に残念なことですが、平成29年3月、岩間伸之教授が急逝されました。

この数年、人間福祉学科は変革期を迎えています。現代社会の生活課題が複雑化する中で、その解決に必要な知識や技術も増え、学生たちの関心や卒業後の進路も多様化していることから、こういった変化に対応した教育プログラムの提供が大きな課題となっており、現行カリキュラムの見直しを進めているところです。これまで、人間福祉学科では、入学後、2年進級時に、心理臨床コースと社会福祉コースを選択する2コース制を取っていました。しかし、本学科で提供される多様な科目群を二分してカリキュラムを実施することが実情に合わないことから、平成30年度入学生からコース制を廃止し、より包括的・学際的な学びを重視することにしていきます。

また、大学院総合福祉科学コースでは、平成29年4月から夜間開講を含むカリキュラムを実施しています。6時限目と7時限目を設定し、この枠で科目開講することで、社会人学生の方が仕事を継続しながら大学院で学べる環境を整備しました。同時に、より多様な人材を求めて、学部生を対象とした特別推薦入試、福祉現場の社会人を対象とした入試制度も導入しています。人間福祉学科の卒業生が、大学院生として戻って来られることを願っています。

組織も周囲の環境も大きく変化の中で、教育や研究の水準を維持・向上していくことは簡単ではありませんが、卒業生の皆様との「つながり」が人間福祉学科の大きな支えになっています。今後も引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。



## 大学の楽しみ方

2016年3月退職/現:大阪歯科大学医療保健学部教授

### 要田 洋江

2016年3月に定年退職し、大阪市立大学生活科学部での教員生活を無事終えることができました。「終えた」と言っても、常勤教員ということに関してだけで、現在、客員教授として市大に出入りしており、まだ研究生活は現役を続けています。一つには、最終講義での「私の研究生活の歩み」でもお話ししましたが、重要な研究の集大成が完成していないことからきます。この集大成をもって次世代に私の研究成果をバトンタッチしたいというのが私の研究者としての願いでもあり、そのためには著作としてまとめることが是非とも必要です。大切な研究の最後をまとめることができるという喜びをかみしめながら、現在、研究に励んでいます。…とまとめたところで、現役時代と変わらず、なかなか研究に集中できず、あと2章ほどで完成するのですが、もどかしいというのが正直なところです。

今年の4月から縁あって、枚方市牧野にある大阪歯科大学医療保健学部教授として、新学部、新大学院立ち上げのお手伝いをしています。超高齢社会に向けて、健康長寿を目指し、福祉分野においても、口腔ケアの領域と手を結び新しい在宅ケアシステムを追求していかなければならない時期にあって、異なる分野の知識や、経験を重ねることは好奇心の強い身としては、これも幸せなことだと思います。さらに、予想しなかったことですが、新しい大学に通うことになって、片道2時間弱の通勤で、初めて、その大変さを

味わう身となりました。4月当初は、筋肉痛に悩まされ、毎回ジムに通っている気分です。夜型を朝型に変更しなければならず、これも身体を鍛え、健康な生活をせよということかなとチャレンジの毎日です。

そして気づいたことですが、新しい大学に勤務するようになって、同じ日本の大学と言っても大学文化の大きな違いにとまどい、そのたびに市大での生活が貴重なものであったことが再確認されます。

生活科学部での約38年間の教員生活は、さまざまな出来事に彩られています。研究者としては幸せであったという他はありません。なんと言っても、研究者に欠かせない総合大学図書館としての学術情報センターの充実は素晴らしいと言えましょう。現役時代は当たり前と思っていたが、必要な本はすぐ手に入りホッとします。また、近年は、司書の方の展示などの企画が充実してきており、大学に来たらいつも学情を覗くのが楽しみの一つとなっています。最近のエピソードを一つ紹介しましょう。学情には、居心地の良いソファ（場所は内緒です）もあり、探索した本をその席でしばし読みふけるのが毎回の楽しみなのですが、その「居心地の良さ」に目をつけていつもその席で爆睡している学生がいます。その学生とてソファの「密かな」取り合いとなっているのです。若者とこのようなやりとりができるのも大学の楽しみかも知れません。



## 学び、伝える“生活に科学を!!”

2017年3月退職/現:食・健康科学講座 特任教授

### 春木 敏

企業にて1年勤務後、行政管理栄養士活動13年を経て、学生教育・研究活動29年、都合43年を経て、現在、特任教授として杉本学舎で最後の1年を過ごしています。歩いてきた道を振り返ってみます。

1969年4月より杉本学舎にて4年間の学部生活を送りました。1学年上の先輩たちは、学生運動真っ只中、前期は講義を受けることもなく、「1年間、部活に明け暮れていたの!!」という先輩も…。当時の先生方は、昼夜、学生と共に意見交換をなさった由、後、教員になってから知りました。翌年、入学の私たちは、特段、授業妨害などもなく平穏でしたが、キャンパスには各セクトの立て看板が並び、何度かヘルメットを装着した革マル派などのシュプレヒコールに呆然としたことを思い出します。

学舎は今と全く変わらず、第1講義室で学生25人がゆったり学習しました。現在の定員35人、体格は雲泥の差ですが、学生たちは仲良く肩寄せあって学習しています。

当時の食物学科には、栄養学の村田希久教授と有機化学の浦上智子教授が、東の…、西の…の如く、近寄り難い存在でした。「栄養指導の講義は栄養生理学の小石秀夫教授、1日24時間の消費エネルギー算出にあたり、真面目に1分単位のTime Studyを記録しました…。卒業研究は社会学に関わる「保育所給食の実態調査」を生化学の江幡淳子先生が提示され、学科一番の勉強家、西村礼子さんと取り組むことに…。私の生涯ワークの端緒となりました。

学部卒業後、企業にてマーケティングリサーチ1年、神戸市衛生局管理栄養士活動13年、乳幼児から高齢者までの栄養指導は楽しく、やり甲斐をもって従事。当時は、中高年の成人病（現、生活習慣病）蔓延を如何に調整するかという課題のもと、国民健康づくり運動施策がスタート。減量講座「食べたら、動こう」を企画・実施・評価。ほぼ全員が減量を達成したものの、修了後はリバウンド者が続出…。すると、参加者同士で“みんなで歩こう会”を結成、保健所主催健康展に向け、近隣のWalking Courseを記したBig Mapの制作・展示と、熱心な自主活動に感嘆しました…。

1987年より、栄養士・管理栄養士養成校勤務を経て、母校、食品栄養科学科/食・健康科学講座にて13年、学生教育と研究に従事しました。小学生対象にライフスキル(生きる力)教育をベースとした栄養教育の評価研究にて遅まきながら学位取得。前後して、学校栄養教諭制度スタート、院生研究課題も小中学生を対象にシフトし、学校栄養教育の評価研究に取組みました。

この6年間は早期健康栄養教育をめざし、大阪市幼稚園教諭らと共に幼児と保護者を対象とする食育プログラム“食べ物に親しむ”“つくってたべよう”の開発・実践、学生たちと評価に取組みました。昨年、幼児と保護者を対象とする食育キット5,000セット制作、大阪市内幼稚園・保育所園に向け、研修開催、教材配布・普及を図りました。人々の生活に即しつつ、科学に基づく栄養教育をめざしもう少し歩いてみます。

## 2017 ニュースレター発行に寄せて…



## 私の日々の想い

大阪市立大学名誉教授・大阪青山大学名誉教授

## 片山 洋子

私が1999年に大阪市立大学を退職してから、すでに18年経ちますが、私は現在も大阪青山大学で、日々、これまでの研究成果を纏めたり、学生の相談相手になったりしての日常を享受しております。

大阪市立大学を退職後は、福岡女子大学に単身赴任して院生とともに自由に研究する環境に恵まれ、しかも大阪と福岡の間を空路あるいは新幹線で往復して沿線風景も存分に堪能しました。

福岡で過ごした4年間は活気に満ちたもので、研究の合間には有田焼や唐津焼きなどの数多くの窯元を訪ねたり、伝統的民芸品を見たりして歩き回りました。

引き続き岐阜女子大学に2年間勤めました。この間には中部地方の高校への出前講義にしばしば出かけました。特に印象深く想い出すのは岐阜・高山・飛騨地方の雪景色です。

その後、私は大阪府の北部・箕面市の山懐に抱かれた大阪青山大学に勤務して既に11年が経ちました。研究室の窓から眺める大阪平野は素晴らしく、特に夜景はとても明るく輝いています。とはいえ、この美しい光のエネルギーがどのようにして得られているのかと考えると、複雑な気持ちになります。

地球温暖化の原因として、「大気中の二酸化炭素濃度が上昇した」からだと専ら言われておりますが、その土台にあるのは地球全体で消費されているエネルギー量です。一定の期間内に地球全体で消費されたエネルギーが、その期間内に廃熱として宇宙に放射されてしまえば地球温暖化は起こりえないでしょう。宇宙への放熱量と比べて、それを上回る量のエネルギーが地球上で消費されているから、地球温暖化が起こるのです。今日では、化石燃料・核燃料が盛んに消費されるようになったために異常気象が日常的に多発しています。

どこの地域・国でも、化石燃料の消費を抑え核燃料の使用を止めて、専ら自然エネルギーを使う様にして地球温暖化の進行を止めねばなりません。

地球の温暖化は、日本近海の海水温上昇をもたらした[1~2°C上昇/100年]、沿岸の褐藻類(ヒジキ等)のミネラル代謝にも大きな影響をもたらしています\*。

[\* 片山ら:第21回国際栄養会議にて報告]



## 建築学会著作賞を受賞して

大阪市立大学名誉教授

## 住田 昌二

私は、人生最後の著作として2010年からほぼ5年がかりで、『現代日本ハウジング史 1914~2006』を執筆しましたが、幸いにも日本建築学会から著作賞を受賞しました。

思い返すと、大阪市大を1996年に退職してから、福山市立女子短大に6年間勤めあげ奈良の自宅に帰ってきた途端、上咽頭がんという、日本人には珍しく、きわめて致死率の高いがんに罹りました。右目の下の鼻腔部にできたもので、手術での切除ができず、放射線と抗がん剤で攻め続けるという治療法で5か月ほどかかり、何とか生還できました。

その結果、免疫力が著しく低下し、ドライアイ、ドライマウスをはじめとして、いろいろな余病に悩まされました。実は、福山短大の退職を最後にライフワークのハウジング史の執筆に掛かろうと思っていましたが、それが出来ずのままにいたるのがずっと気になっていました。ところが2010年に悪性リンパ腫が後頭表皮部にでき、それを治療するため市大病院に入院しました。

もう「待った」をするわけにいかず、病院にパソコンを持ち込んで「第1章」から書き始めました。入院は3か月ほどで済みましたが、それからずっとがんと共生することになりました。外出はできるだけ控え、食事制限する「坊さん」のような生活のなかで、執筆に生き甲斐を見出すのは、やせ我慢ながらきわめて好都合でした。

そんな形で足かけ5年ほどで何とか書き上げたという次第です。

それで一言。日本人の寿命は最近飛躍的に伸びました。私の場合で言うと、大阪市大の現役引退が1996年で、それから今までで20年強経っています。今日、「現役引退」しても以後の人生はたっぷりあるのが通常です。どうか、皆さん充実した人生でありますよう!

## NEWS おしらせ

## SNSを始めました!!



生活科学部・生活科学研究科では、SNS(Social Networking Service)を始めました。「健康」「環境」「福祉」の3つ柱の食品栄養科学科、居住環境学科、人間福祉学科の3学科に関する日々の出来事についてお知らせしています。現代社会の生活問題を生活者の視点から科学的に考える学部としての様々な取り組み、教育・研究における地域との関わり、QOLプロモーション活動など、いろいろな情報をFacebookとTwitterで発信していきます。普段の学生生活や情報をお寄せいただければ、卒業生の近況をお知らせすることもできます。卒業生どうし情報提供の場としてメッセージ交換を行ったり、イベント紹介ではコミュニティの場として利用していただいたり、生活科学部・研究科とのつながりをより一層身近に感じていただけることと思います。皆様のたくさんの「いいね!」をお待ちしています。



【Facebook】

<https://www.facebook.com/Seikatsukagaku.OCU/>

【Twitter】

[https://twitter.com/seika\\_lifeocu](https://twitter.com/seika_lifeocu)

## 2015年9月~2017年9月

## 退職者

粟田 洋江先生(2016年3月)  
三浦 研先生(2016年3月)  
加藤 久美子先生(2016年3月)  
林 史和先生(2016年3月)  
春木 敏先生(2017年3月)

## 着任教員

堀口 正先生(2016年4月)  
大西 次郎先生(2016年4月)  
出口 美輪子先生(2016年4月)  
松下 大輔先生(2017年3月)  
中台 枝里子先生(2017年4月)  
浅野 桃子先生(2017年4月)

## 訃報

名誉教授  
三崎 旭先生(2016年7月)  
名誉教授  
皆川 基先生(2016年8月)  
人間福祉学科教授  
岩間 伸之先生(2017年3月)  
食品栄養科学科 元教員  
大谷 貴美子先生(2017年7月)

## 叙勲

塩川 和子先生(1959年 食物学卒)  
旭日中継章(2016年4月)

## 受賞

住田 昌二先生  
2017年 日本建築学会 著作賞  
春木 敏先生  
一般社団法人  
全国栄養士養成施設協会教員表彰  
2016年 11月



【大学エントランス】  
JR杉本町駅から南部ロードを通り、大学正面に出ます。生活科学部は駅から一番近い建物になりました。



【藤棚のない裏庭】  
安全のため藤棚は撤去されました。ポタジェが広がる第1~第5教室前。

## EDITORIAL NOTE 編集後記

生活科学部同窓会News Letterをお届けします。「大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある」。関一大阪市長の言葉通りに、今大阪市立大学は都市とともに変革期にあります。環境整備が進み、学内の景色もずいぶん変わりました。大学のシンボルだったワシントン椰子や、現生活科学部学舎完成の際に設置された藤棚もその役割を終えました。同窓会も有恒会を中心とした大阪市立大学同窓会へと組織化されつつあります。今後は生活科学部同窓会からのNEWSは大阪市立大学同窓会広報紙の中で全学の同窓会のニュースとともにお伝えすることになります。生活科学部からのSNS発信も随時行います。都市と共に変化する生活科学部に今後ともお力添えいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

生活科学部同窓会ニュースレター編集幹事